



であい

障害福祉サービス事業所であい

〒245-0053

戸塚区上矢部町2342

電話 811-2442

FAX 811-2499

e-mail deai@deainokai.com

施設長 加藤 和彦

平成26年6月13日発行

平成26年度 第1号

「平成26年度を迎えて」 施設長 加藤和彦

昨年度は、法人創立20周年を迎え様々な企画をして施設の歩みを振り返りました。であいが平成5年に事業を開始した当初は、養護学校卒者が約8割で若々しく元気な方が多く、作業活動や余暇活動を通して共に学びながら日々の活動を行って来ました。内部疾患、行動障がい、重複障がい等を含む利用者さんを専門に支援するのが福祉施設です。実態としては、福祉系大学でも臨床で効果的な支援方法を教授する学校は少なく、職員は生活リズムの形成と情緒の安定を目標に、日々試行錯誤で支援を行って来ました。このような状態の中、支援の助けになったのは保護者の方々からの家庭での養育から得た知恵でした。「こう言う状態の時はどの様にしていたのですか。」「今、発語が有りましたが何と言っていますか。」等「こうしていました。」「こう言っています。」等と教えて頂き、さすがだなと思うことが多々ありました。職員も利用者さんと向かい合い、行動の様子を記録し注意深く聴く等を積み上げる事で少しずつ行動の意味を理解しながら今日まで積み重ねてきました。このような経過の中、法人として支援に必要な事業を展開し、法律も3度変わりました。

障害者総合支援法施行に伴い、知的の障がい特性に応じた支援区分への移行やグループホーム一元化に伴う夜間勤務体制の変更、計画相談支援の体制整備等身近な制度変化が有りました。今私が心配しているのは、医療ケア体制の脆弱さです。入所のソイル栄やグループホームでは、高齢化や医療ケアの必要性が高まっています。以前から知的系施設の支援の限界が医療ケアと介護でした。現在は生活上の基本介護は少し改善してきましたが、医療ケアはまだ眼前の壁です。今後、福祉医療の連携と優秀な職員の確保が不可欠です。憲法第25条の基本的な人権と第13条の幸福の追求が有ります。関係者の皆様方と協働で国及び地方に要望し、福祉を必要とする人が安心して暮らせる体制整備をしていきたいと考えます。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

新規職員紹介

今年度新たに“であい”で働き始めた職員を紹介させていただきます。

伊藤 みずき (いとう みずき)



Q.出身は？

生まれは横浜市ですが、小学4年生から高校卒業まで岩手に住んでいました。方言が出たらすみません…。

Q.趣味

音楽鑑賞とライブ参戦。「ゆず」が好きで、学生時代にはライブの為に北海道まで足を運んだこともあります。

Q.最後に一言

一生懸命頑張りますのでこれから宜しくお願いします。

荒木 聡美 (あらき さとみ)



Q.座右の銘は？

「労を惜しめばその果実は少なし。人の幸運は、その人の苦勞に宿る」

古代ギリシャ人の言葉

Q.好きなスポーツ

学生時代バレーボールをしていたので、得意と言えるほどではありませんが好きです。

Q.最後に一言

まだまだ分からないことだらけですが、精一杯頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。